

写真等の印刷が不鮮明な場合は Web ページでご確認ください。

<http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/pub/n1/n182.html>

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第 15 号 (通巻第 82 号)

2002 年 10 月 21 日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
電話 055-220-8325, FAX 055-220-8790
e-mail:kjc@kjb.yamanashi.ac.jp
URL:<http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/>

第 1 回教育実践研究会のお知らせ

実践センターでは、このたび教育実践に関する研究上の情報交換の場として教育実践研究会を開催していくことにしました。第 1 回は、1 か月あまりの在外研究からもどられた岡林氏に話題提供をしていただくことになりました。多数の参加をお待ちしています。

日時：2002 年 10 月 28 日 (月) 16:30~18:00

場所：教育人間科学部 附属教育実践総合センター 4 階 授業研究演習室 (J 号館 J422)

話題提供者：岡林春雄教授 (学校教育講座)

テーマ：心理学におけるパラダイム・シフト

参加料：無料

問い合わせ先：教育実践総合センター

電話 055-220-8325, FAX 055-220-8790, 電子メール:kjc@kjb.yamanashi.ac.jp

心理学におけるパラダイム・シフト
トロント大学での在外研究を通して
岡林春雄

これまで心理学領域で研究を行ってきた、三つの問題点が出てきた。そのひとつが、ネットワークの上位概念と下位概念との繋がりである。この階層的な繋がりが明らかになっていない。二番目は、データを直線型で捕らえただけでよいのかという疑問である。そして、三番目は、原因 結果は日常生活上単純ではない、ということである。これらの疑問をもって、今回、トロント大学 (カナダ) でのリサーチに臨んだ。そして、出会ったのが、ダイナミカル・システム理論 (DS 理論) であった。この理論は、プリゴジン等が提唱した「複雑系」にルーツをもつ。「複雑系」研究は、一時期の狂騒的な段階を終え、今、静かにいろいろな分野に影響を及ぼし始めているように思われる。

ダイナミカル・システム理論は、テーレン等のリーチング研究を経て、今、情緒の発達モデル (トロント大学グループ) を提示するところまできている。このダイナミカル・システム理論の特徴である「自己組織化」、「非線形モデル」、「入れ子構造になった原因 結果関係」によって、上記の疑問・問題点を解決するとともに、認知 情緒の相互作用にアプローチすることができるようになった。この理論は、心理学にとってもパラダイム・シフトと言って良い発想の転換を迫っている。今回の報告会では、ダイナミカル・システム理論を中心に、心理学ならびに近接領域において今、何が必要なのか検討したい。

センターだよりは、<http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/pub/n1/> で見るすることができます。